

経済学部 教育の方針

教育の基本的目標

経済学部は、経済学・経営学・会計学の幅広い知識と深い専門的な能力を育成するとともに、学生同士や教職員および地域社会との密接な対話や議論を通じて、社会や経済が直面する課題を早期に発見し解決するための能力を涵養します。それぞれの学生の個性に応じた豊かな人間性を熟成できるように支援し、国内外の幅広い分野において中核的に活躍しうる能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

養成する人材像

教育の基本的目標に掲げられた、「経済学・経営学・会計学の幅広い知識と深い専門的な能力」を専門力、「社会や経済が直面する課題を早期に発見し解決」を探究力および実践力、「学生同士や教職員および地域社会との密接な対話や議論」をコミュニケーション力、「豊かな人間性」を教養力としてそれぞれ捉え、国内外の幅広い分野において中核的に活躍しうる能力と人格を備えた人材を養成します。

高度な専門性を背景とした冷静な分析力と社会問題への深い理解を兼ね備えた探究者

以下、5つの力を持つ人材を養成します。

- 課題の解決に向けて、意欲的・積極的に取り組む実践力
- 社会や経済の本質を理解し、課題を見出す探究力
- 他者を尊重し協働するコミュニケーション力
- 経済学・経営学・会計学の知識に基づく専門力
- 幅広い学びから柔軟な思考を導く教養力

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）

経済学部は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】課題の解決に向けて、意欲的・積極的に取り組む実践力

直面する課題の解決に向けて、自ら意欲的・積極的に行動することができる。

【探究力】社会や経済の本質を理解し、課題を見出す探究力

冷静に物事の本質を理解し、何が問題なのかを明らかにすることができる。

【コミュニケーション力】他者を尊重し協働するコミュニケーション力

他者の意見や多様性を理解して尊重し、協働することができる。

【専門力】経済学・経営学・会計学の知識に基づく専門力

経済学・経営学・会計学の専門的知識と分析力を活用することができる。

【教養力】幅広い学びから柔軟な思考を導く教養力

幅広く学ぶことで自らの好奇心を刺激し、柔軟な思考力を持つことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針(ディグリー・ポリシー)で掲げた力を修得した人材を養成するため、経済学部として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたのか」から学生が「何ができるようになったのか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

具体的には、経済・経営・会計の専門性を支える基盤を作るため、1年次に専門基礎科目を提供します。経済学部の教育・研究がカバーする領域は広く、1年次は、各専門分野に共通する専門基礎科目群から幅広く履修することによって、経済・経営・会計全般に関する基礎知識を修得し、2年次からの本格的な専門教育に備えます。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、想像したりすることができる機会を提供します。

[履修の流れ]

(昼間コース)

2年次以降の専門教育科目は、専門知識を体系的かつ多面的に修得できるように5つの専門科目群とアクティブ・ラーニング主体の実践型科目群、外部講師による社会連携型科目群等の合計8つの科目群(ユニット)から構成され、それらを大科目群(モジュール)に従って履修すると専門に応じた学修目標に到達します。同一モジュール内の科目を履修(系統履修)していくと領域内の専門性を高めることができ、複数のモジュールに跨って履修(横断履修)すると専門知識を体系的に広げることができます。具体的なモジュールとして、経済分析モジュール、政策モジュール、国際比較モジュール、組織経営モジュール、会計学モジ

ルールがあります。1年次から履修する基礎研究や、3・4年次で履修する卒業研究などの少人数教育授業では、修得した専門知識に基づいて、多様な社会課題を発見・分析し、解決するための応用力を身につけます。

（夜間主コース）

1年次の専門基礎科目によって経済学・経営学・会計学の基礎知識を体系的に学修した後、2年次以降の専門教育科目および3年次の演習科目を通して、専門性を高めていきます。意欲のある学生は1年次から専門教育を受けることができるように「テーマ学修」の制度を設けています。さらに2021年度からは法学部夜間主コースと共同で地域人材育成プログラムを立ち上げ、両学部の一定数の専門教育科目を共通専門科目と位置づけた教育プログラムを編成しています。

夜間主コースは2コース制をとっており、総合学修コースは経済・経営・会計分野の幅広い知識と専門性の修得を目指し、実践力強化コースは経済・経営・会計分野の専門性と法学分野の専門性の修得によって実践力強化を目指せるように、卒業要件を設定しています。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

専門教育科目以外では、聞く、読む、話す、書くを統合した総合力を伸ばすために必要な科目群を学ぶ機会を提供します。専門科目では、2年次以上を対象に、英語による科目を提供します。

教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

- ・経済学、経営学、会計学における高度な専門知識とその応用力を修得するために、講義形式及び演習形式の科目を履修します。
- ・特に基礎研究や卒業研究、実践コミュニケーション論などの演習形式の科目はアクティブ・ラーニングを用いて実施されるため、当該科目の履修によって、報告・発表の経験を積み重ね、能動的な学修を身につけます。それによって、学生同士や教職員との対話を通じて、他者と協働できるコミュニケーション力を養います。
- ・経営者、公務員など、現場の一線で働かれている方々を講師とした多様な講義・演習科目を提供します。演習科目では、企業が抱える現実の課題に対し、チーム毎の解決策を考え、それによって、社会的な課題を発見する力や解決を導く実践力を養います。

学修評価の考え方

- ・講義科目の学習成果は、シラバスに記載された学修目標の達成度という観点から、科目の特徴に合わせて、試験・レポート・授業での課題等により評価します。評価方法はシラバ

ス等により明示します。

- ・基礎研究や卒業研究は、課題への取り組み状況や成果の発表状況等により総合的に評価します。キャリア教育科目は、レポート・授業での課題等により評価します。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを超えて自らの成長を実感できるように、学者・実務家を招き講演会を開催し、交流の場も設けています。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

経済学部は、以下に掲げた力を身につけた人材を求めます。

求める人材像

経済学部では、先人の築いた知から経済や社会の課題に迫る実践力、課題と自らの考えを結びつける探究力、自らの課題や構想を他人に分かりやすく伝えられる力、経済や社会に関する基礎的な知識と語学力、学びそのものへの興味を持ち思考力を駆使できる人材を広く求めます。

求める力

【実践力】

経済や社会に広く関心を持ち、より良い社会の形成へ向けて、意欲をもって積極的に取り組める人。

【探究力】

経済や社会を動かしている仕組みを理解して、現実の経済や社会が抱える課題を丁寧に考えられる人。

【コミュニケーション力】

より良い社会の形成へ向けた課題の発見と解決に際して、お互いを尊重し個々の多様性を認めた対話ができる人。

【専門力】

経済や社会に関する基礎的な知識を身に付け、現実の経済や社会の課題へ向き合うことができる人。

【教養力】

現実の社会に興味を持ち、より良い社会の形成を目指して柔軟な思考力を駆使できる人。

経済学部の選抜方針

経済学部の「求める人材像」に適應できる幅広く多様な人材を確保するため、一般型選抜・学校推薦型選抜・国際バカロレア選抜などによる複数の試験及び日程の入試を実施します。

経済学部の選抜方法

学力検査、小論文、面接、書類審査などによる試験のいずれかを、あるいは組み合わせて行い、経済学部での学習に足る学力と適性を測ります。

以下、「選抜方針・各選抜方法の具体的な考え方」・「入学者選抜と学力の3要素との関係」・「入学前に学習しておくことが期待される内容」については、昼間コースと夜間主コースに分けて記載します。

【経済学部経済学科 昼間コース】

選抜方針・各選抜方法の具体的な考え方

・一般選抜（前期日程）

6～7教科8科目の大学入学共通テストを課し、高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を評価します。個別学力検査では、国語・数学・外国語の中から2科目を課し、経済学部における学修の基盤となる科目の理解度と応用力を評価します。

・学校推薦型選抜Ⅱ(大学入学共通テストを課すもの)募集方法 A

3教科3科目の大学入学共通テストを課し、高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を評価します。さらに調査書・推薦書・志望理由書および面接により、経済・社会問題およびより良い社会の実現にたいする知識・関心と思考力・表現能力・コミュニケーション能力・勉学意欲・適性を総合的に評価します。

・学校推薦型選抜Ⅱ(大学入学共通テストを課すもの)募集方法 B

5～6教科7科目の大学入学共通テストを課し、高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を評価します。さらに調査書・推薦書・志望理由書および面接により、経済・社会問題およびより良い社会の実現にたいする知識・関心と思考力・表現能力・コミュニケーション能力・勉学意欲・適性を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本留学試験とTOEFLまたはTOEICの成績提出を課し、入学後の学修に必要な基礎学力と日本語能力・英語能力を評価します。また小論文により、経済学部における学修に必要な知識・思考力・読解力・文章表現力を評価します。さらに書類審査と面接により、経済・社会問題およびより良い社会の実現にたいする知識・関心と思考力・コミュニケーション能力・勉学意欲・適性を総合的に評価します。

・国際バカロレア選抜

書類審査により、成績評価証明書・自己推薦書・評価書を通して、経済学部における学修に必要な基礎学力と自己表現力・意欲を評価します。

入学者選抜と、学力の3要素との関係

入試区分	知識・技能	思考力・判断力・表現力等の能力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
一般選抜	◎ 大学入学共通テスト	○ 大学入学共通テスト	☆ 調査書
	○ 個別学力検査	◎ 個別学力検査	
学校推薦型選抜Ⅱ (大学入学共通テストを課す)	○ 大学入学共通テスト 調査書	◎ 面接(口述試験を含む)	○ 面接(口述試験を含む) 調査書・推薦書・志望理由書
私費外国人留学生選抜	◎ 日本留学試験 ○ 英語資格・検定試験	◎ 小論文(日本語) 面接	○ 面接 ☆ 書類審査
国際バカロレア選抜	◎ 成績評価証明書	○ 成績評価証明書 ◎ 自己推薦書・評価書	☆ 自己推薦書・評価書

(注) ◎は特に重視する要素、○は重視する要素、☆は総合的な判断となる要素
各要素に対する資料は、「主とする資料」であり、それ以外の要素でも活用する場合がある。

入学前に学習しておくことが期待される内容

なお、入学後の学修のため、入試方法に関わりなく、国語・数学・外国語の各教科科目に関しては、高等学校卒業レベルの基礎学力を有していることが求められます。

【経済学部経済学科 夜間主コース】

選抜方針・各選抜方法の具体的な考え方

・一般選抜(前期日程)

5教科5科目の大学入学共通テストを課し、高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を評価します。個別学力検査では、国語・数学・外国語の中から1科目を課し、経済学部における学修の基盤となる科目の理解度と応用力を評価します。

・学校推薦型選抜推薦Ⅰ(大学入学共通テストを課さないもの)募集方法A・B

小論文により、経済学部における学修に必要な知識・思考力・読解力・文章表現力を評価します。さらに調査書・推薦書・志望理由書および面接により、経済・社会問題およびより良い社会の実現にたいする知識・関心と思考力・コミュニケーション能力・勉学意欲・適性を総合的に評価します。

・社会人選抜

小論文により、経済学部における学修に必要な知識・思考力・読解力・文章表現力を評価します。さらに志望理由書等の書類審査および面接により、経済・社会問題にたいする知識・関心と思考力・コミュニケーション能力・勉学意欲・適性を総合的に評価します。

入学者選抜と、学力の3要素との関係

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
一般選抜	◎	大学入学共通テスト	○	大学入学共通テスト	☆ 調査書
	○	個別学力検査	◎	個別学力検査	
学校推薦型選抜Ⅰ (大学入学共通テストを課さない)	☆	調査書 英語資格・検定試験	◎	小論文 面接(口述試験を含む)	○ 面接(口述試験を含む) 調査書・推薦書・志望理由書
社会人選抜	○	小論文	◎	小論文 面接(口述試験を含む)	○ 面接(口述試験を含む) 志望理由書

(注) ◎は特に重視する要素、○は重視する要素、☆は総合的な判断となる要素

各要素に対する資料は、「主とする資料」であり、それ以外の要素でも活用する場合がある。

入学前に学習しておくことが期待される内容

なお、入学後の学修のため、入試方法に関わりなく、国語・数学・外国語の各教科科目に関しては、高等学校卒業レベルの基礎学力を有していることが求められます。